

## 反省会の開催について

会議室予約管理システムの開発お疲れ様でした。取り敢えず一通りの開発も完了し、おくつろぎのことと思いますが、開発中に心に引っ掛かることなども多数あるかと思います。

### 『後悔、先に立たず』

と言いますが、

### 『後悔、後に役立つ』

というコンセプトで反省会を開催したいと考えています。従って、できるだけたくさん後悔したいと考えています。

というのは、基本的に、失敗の原因に気がつかなければ、次も同じ失敗をしてしまうことが考えられます。失敗の原因に気がついていても、それを認めなければやはり同じ失敗をしてしまうでしょう。そして、失敗を認めても、それを改善しなければ成功は有り得ないでしょう。

つまり、失敗に気づかない。・・・鈍感

失敗に気づいても認めない。・・・頑固

失敗を認めても分析しない。・・・無謀

失敗を分析しても改善しない。・・・怠惰

ということになります。だからこの四つの壁を取り除きたいと思います。そして

てまずは気づかなければならないと思います。

以下の目的と主旨にご賛同頂いた上で、反省会では以下のテーマに従って進行させますので、予め意見、質問、失敗談、成功談、他人への誹謗中傷（事実無根のものや感情的なものは除き、証拠資料のあるもの）等を用意して下さい。

#### ● 反省会の目的と主旨：

- ・ 今、後悔していることを過剰評価、分析し、根本原因を探り、今後の開発、仕事に同じ後悔をしないように対策をたてる。

#### ● 反省会の進行方針：

- ① 様々な「後悔」、「悔しさ」等をバネにして、今後のシステムにどのように取り組むかを全員で考え追求する。そこで、今更ながらに「ああすればよかった、こうしとけばよかった」もしくは「こうして欲しかった」等の後悔した意見をブレインライティング法（以下、BW法）によって百出させる。（発散思考）
- ② 上記、後悔の根本原因とその対策についてKJ法や連関図法で考え、こうすれば理想のシステム、理想のプロジェクトになったはずだという夢を語り合う。（収束思考）

と、いうことで下記の通り反省会を開催します。皆さんここで大いに悔しがりましょう。

#### 記

1. 日時： 2011年04月27日 09時20分 より 16時45分 まで
2. 場所： D9 5階 501教室
3. 用意するもの： BW専用の用紙と鉛筆と必要資料と頭脳
4. テーマと進行：
  - 09：20 発想法に関する講義の復習
  - 10：15 「開発中に後悔したこと」をテーマにBW法による発散思考で意見を百出させる。（添付1,2参照）
  - 11：50 BWによる発散思考終了
  - 14：15 百出發散した意見をKJ法、連関図法などの収束思考により情報を整理して、理想のシステム、プロジェクトの姿を考える。（添付3参照）
  - 16：30 収束思考終了、相互評価票記入・提出、チーム報告書記入提出、BWの用紙提出
  - 16：45 解散
  - 17：00 各チームで打ち上げ（場所未定 多分どこかのビアホイ？・・・飲コミュニケーション・・・）

——以上——

P. S. BWの実施方法は添付1,2に、収束思考の実施方法は添付3に説明しておりますのでご参照下さい。

## BW（ブレインライティング）の実施方法

以下に説明するのはBW（ブレインライティング）という**ゲームのルール**について書いたものとして読んで下さい。

このゲームが終了する頃には、**6 × 参加人数 × 3 の意見**が出ていることになります。

（１）隣同士に手が届く範囲で（丸テーブルが最適）着席する。

（２）BW専用の用紙を全員に数枚配布する。用紙の書式は以下の通り。（別紙は添付 2）

	A	B	C
1			
2			
3			
4			
5			
6			

三つの意見を書くための列を示す。

この枠内に一つの意見を記入する。

一人が最低限、A, B, C の三つの違う意見を記入する。

一枚の用紙で 6 人の人が記入できる。  
人数が 6 人よりも多い場合は複数枚の用紙で対応する。

（３）各人に配布された上記の用紙に、各人が最初は 1 の A, B, C について最低限三つの意見を記入する。（必ず三つの意見を出す。）

これを 5 ～ 10 分以内に記入する。（三つ以上の意見を持っている人は次の回まで待って書き込む。）

（４）全員が 1 の A, B, C に意見を記入したら、各人がその左隣の人にその紙を手渡す。（用紙だけが時計回りに回る。）

（５）全員が右隣の書いた人の意見（1 の A, B, C に書かれている事柄）について査読する。

（６）それを見て、新たに思いついた事柄や、更に 1 の A, B, C とは関連の無い全く新しい事柄について 2 の A, B, C に書く。右隣の人が既に 2 の行に及んで書いている場合は、その横の未記入の枠から書く。

（（５）（６）を合わせて約 10 分以内に査読と記入を済ませる。）

（７）全員が 2 の A, B, C に意見を記入したら、各人がその左隣の人にその紙を手渡す。（用紙だけが回る。）

（８）全員が右隣から回ってきた用紙の意見（1 と 2 の A, B, C に書かれている事柄）について査読する。

（９）それを見て、新たに思いついた事柄や、更に 1 と 2 の A, B, C とは関連の無い全く新しい事柄について 3 の A, B, C に書く。

（（８）（９）を合わせて約 10 分以内に査読と記入を済ませる。）

（10）BW用紙の 6 行目までの全ての行に記入し終わるまで（７）、（８）、（９）のような操作を繰り返す。（各メンバがおりを見て休止、終了を宣言しても良い。）

補足説明：人数が多い場合は複数枚の用紙をあらかじめ用意しておく。全員が三つの意見を書かないと回らないので各人が真剣にやらないと意見が出ない。

**途中参加は、既に参加している人の発想を妨げることになるので基本的に厳禁です。**

テーマ： 開発中に後悔したこと

	A	B	C
1			
2			
3			
4			
5			
6			

## 収束思考の実施方法

K J 法や欠点羅列法は百出した意見をまとめる（収束させる）ための方法として有効な手段です。

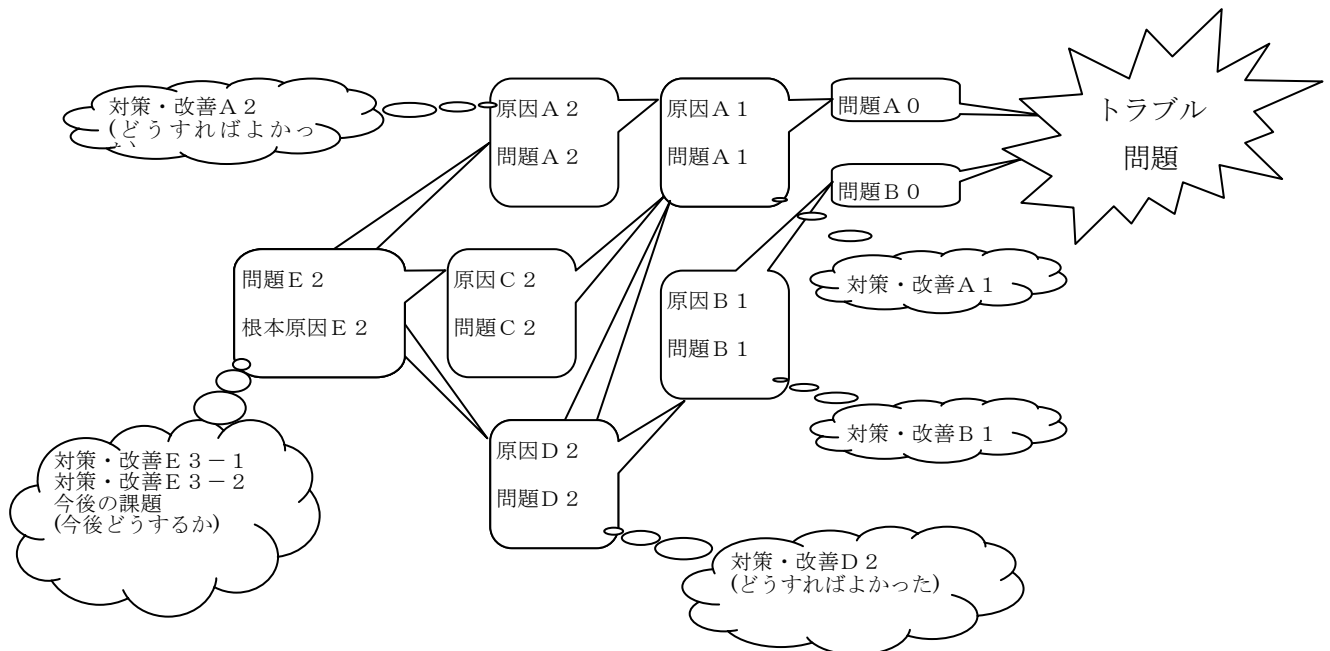
以下にその手順を示します。

- (1) ブレインライティング等で百出した意見を附箋紙等に記入する。
- (2) 附箋紙に書いた項目の中で似たようなもしくは共通性を見だし、同じようなカテゴリでグループ化する。
- (3) カテゴリで分けたグループを代表する名前／名称（名前や名称は長くなっても文章になっても良い。）をつける。
- (4) 上記のグループを更に大きなグループで構成し、そのグループを代表する名前／名称（名前や名称は長くなっても文章になっても良い。）をつける。

ここでK J 法によるまとめを終える。

次に、問題点の抽出と関係性（原因—結果・問題：改善）を追究する。

- (5) 百出した意見の中で問題点を抽出する。もしくは、K J 法でグループ化したものの中で問題点を抽出する。
- (6) 「なぜそのような問題点が発生したのか？」[なぜそうなったのか?」を考え、問題点の原因を追究する。
- (7) 更に、発生した原因が「なぜ発生したか?」を考え、「なぜ?」を5回繰り返して究極の原因（問題点）を探る。  
(派生する原因毎に更にその基となっている原因を追究する。)
- (8) 追究結果をまとめ、どうすればよかったのか、今後どうしたらよいかを考える。  
(欠点の裏返しは改善点なのでそれについて考える。)
- (9) 上記の結果の関係性を図にまとめる。



問題—原因—対策—改善 の関係図